



第3章 これまでの取り組みと課題

これまでの取り組みと課題

1 健康市民おかやま21の取り組み (平成15年度～平成24年度)

国では健康寿命の延伸や生活の質の向上を目標に掲げ「健康日本21」を策定し、平成12年度から第3次国民健康づくり対策を推進してきました。

平成15年に岡山市でも、「すべての市民が健康で自分らしく生きられるまち」を目指し、健康日本21地方計画である「健康市民おかやま21」を策定し、地域、家族、職域、行政等が力を合わせて、市民一人ひとりの主体的な健康づくりを支援してきました。

(1) 基本方針

- ① 市民の主体的な健康づくり
- ② 目標値と実践項目設定の健康づくり
- ③ 地域連携の健康づくり

(2) 計画の期間

平成15年度から平成24年度までの10年間としています。平成19年度に中間評価を行い、計画を見直し、平成24年度には最終評価を行いました。

(3) 計画内容

生活習慣改善の達成度を評価する3つの重点目標（血圧高値^{※1}の割合、コレステロール異常^{※2}の割合、血糖高値^{※3}の増加割合）と生活習慣病予防に必要な6分野（栄養・食生活、身体活動・運動、休養・こころの健康づくり、たばこ、アルコール、歯の健康）の取り組み目標を設定しました。そして、中間評価により計画の見直しを行いました。健康で自分らしく生きるためには、検査結果の数値だけでなく、健康を自覚できる人が増加することがより重要であり、「健康を自覚できる人の増加」を上位目標としました。

※1 血圧高値：収縮期160mmHg 以上または拡張期95mmHg 以上

※2 コレステロール異常：総コレステロール240mg/dl 以上またはHDLコレステロール39mg/dl 以下

※3 血糖高値：空腹時血糖110mg/dl 以上または随時血糖140mg/dl 以上

(4) 基本的視点

- ① 一次予防の視点に立った健康づくりの推進
- ② 生涯を通じた健康づくりの推進
- ③ 社会貢献による健康づくりの推進
- ④ 健康情報の共有による健康づくりの推進
- ⑤ 科学的根拠に基づいた健康づくりの推進



(5) 推進体制

- ① 健康市民おかやま21推進会議、庁内推進会議の設置

市民、職域、行政等が連携を図り、「健康市民おかやま21」を円滑に推進するために健康市民おかやま21推進会議を、また市役所内の関係課が連携して推進していくために庁内推進会議を設置し、取り組んできました。

- ② 6保健センターエリアごとの活動

6保健センターエリアごとに推進組織が立ち上がり、それぞれの地域で目標をたて、地域特性にそった活動を展開してきました。

また、中学校区や小学校区などの小単位での推進組織が立ち上がっている地域もあります。また、それぞれの地域の推進状況の情報交換を行い、活動を活性化するために、平成17年より地域推進会議情報交換会も開催しています。

- ③ 専門部会の活動

平成15年度に立ち上げた21推進イベント実行委員会は、平成18年度にイベントから普及啓発を中心に活動する普及啓発部会に移行しました。また、活動の進捗管理や評価を行う活動評価部会を立ち上げ、より効果的に推進できるよう取り組んできました。

- ④ 職域・保険者連絡会の開催

中間評価で、壮年期の男性や、青年期の男女の生活習慣の問題が明らかになったことより、平成21年度より職域・保険者連絡会を開催し、職域との連携を推進してきました。

2 健康市民おかやま21最終評価と今後の課題

「健康市民おかやま21」のこれまでの取り組みを評価し、平成25年度からの次期計画に反映させることを目的として、市民、専門家、公民館職員、保険者、学識経験者らで構成した「健康市民おかやま21活動評価部会」において、平成23年度から24年度にかけて種々のデータをもとに最終評価を行いました。

(1) 健康市民おかやま21の評価の方法

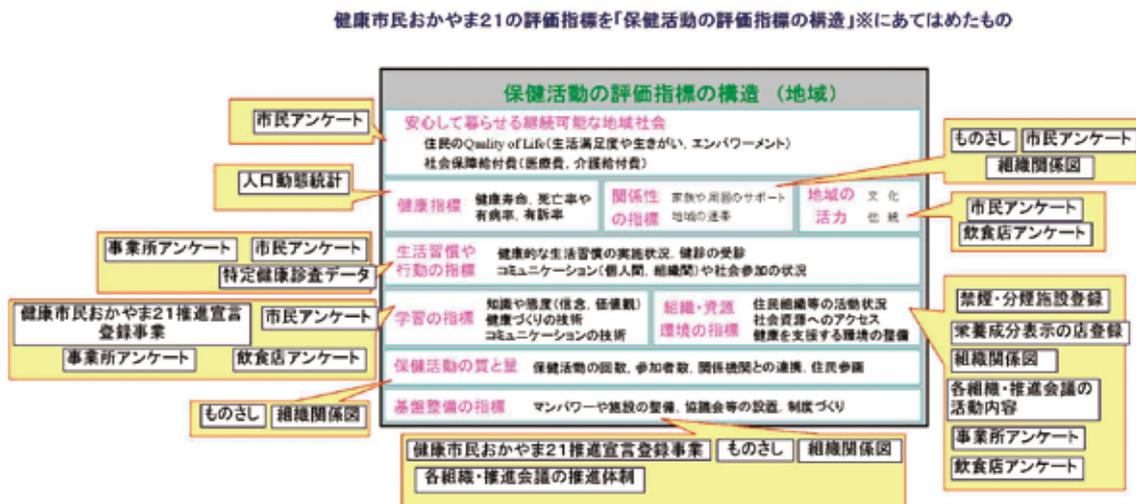
① 評価の枠組み

上位目標である「健康を自覚できる人の増加」の評価、「地域での健康づくりへの取り組み」の評価、「生活習慣病予防に必要な6分野についての生活習慣や行動、学習、環境整備など」の評価を行いました。

評価にあたっては、上記の内容の評価が出来るよう、結果（アウトカム）の評価だけではなく、これまでの取り組みの経過（プロセス）やその影響（インパクト）を評価する様々な指標を用いて評価を行いました。

② 評価指標

指標の構造



※「ここまで進んだ健康日本21の推進(市町村版)」より引用

健康市民おかやま21の評価に使用するデータを、保健活動の評価指標の構造※にあてはめて、どの指標として使用するかをあらわしたものです。既存のデータや、新たに得たデータを利用して、すべての指標を網羅できるようにしました。

※保健活動の評価指標構造（「ここまで進んだ健康日本21の推進（市町村版）」より引用）

(2) 最終評価結果

① 主観的健康感の評価結果

計画の上位目標としていた「健康を自覚できる人の増加」については78%であり、目標値を達成していました。この項目は岡山市の都市ビジョンの成果指標ともなっています。

② 地域での健康づくりへの取り組みの評価結果

国の策定する「健康日本21（第2次）」の基本的な方向には、「地域や社会の絆、職場の支援などが機能することにより、社会全体が相互に支え合いながら、国民の健康を守るための環境を整備すべきである」と明記されています。この方向は岡山市のこれまでの取り組みと合致しています。

地域での推進体制の整備

保健センターエリアごとの6カ所の推進会議だけではなく、より住民に身近な小単位の組織づくりを目指し、中学校区単位21カ所、小学校区単位13カ所に推進組織ができました。

(中間評価時（平成19年度）：中学校区単位15カ所、小学校区単位4カ所)

	保健センターエリア	中学校区	小学校区
策定時（平成15年度）	6	6	1
中間評価時（平成19年度）	6	15	4
最終評価時（平成24年度）	6	21	13

地域のネットワークの広がり

地域で複数の組織・団体が連携して健康づくりへの取り組みが活発に行なわれ、地域のネットワークがより広がり、強化されました。地区組織や21推進組織だけでなく、新たに企業や学校との連携ができた地域も一部あり、地域差がみられました。

地域の推進組織の健康づくり活動の状況

分野別取り組みでは、中間評価時まで取り組みの進んでいなかった「こころの健康づくり」の分野は平成22年度以降進んだ地域が多かったです。

年代別にみると、青壮年期への取り組みが不十分とした地域が多かったです。

③ 生活習慣や行動、学習、環境整備などの評価

目標値達成もしくは改善している項目が64項目中40項目(62.5%)でした。

目標項目評価結果

策定時の値 ^{*1} と直近値を比較	項目数
◎ 目標値に達した	8
○ 目標値には達していないが改善した	32
△ 策定時値と比較してほぼ変化なし	18
× 策定時値と比較して悪化した	6
合計	64
評価困難 ^{*2}	25

※1 中間評価時に新たに追加した目標項目については、中間時の値と比較している

※2 評価困難：策定時に目標設定していたが、最終評価において評価できる指標がないもの

なお、上記の各評価結果の目標項目の主なものは以下のとおりです。

◎	健康状態がよいと感じる市民の割合の増加 終日禁煙に取り組んでいる事業所、飲食店の割合の増加 12歳児の1人平均むし歯数の減少 など
○	食塩を控えている人の割合の増加 定期的に運動している人の割合の増加 睡眠で休養が十分とれている人の割合の増加 喫煙している割合の減少 60歳代で自分の歯を24本以上保っている人の割合の増加 地域活動に参加している人の割合の増加 など
△	朝食を毎日食べている幼児、児童の割合の増加 ストレスの解消ができていない人の割合の増加 多量飲酒者の割合(3合以上)の減少 など
×	朝食を欠食する割合(20～30代)の減少 ストレスをよく感じる人の割合の減少 など